

褥瘡の治癒促進を目指した 乳酸菌発酵成分配合ONSの活用

医療療養病棟は、急性期医療の治療後も継続した入院加療を必要とする患者様にとっての中長期的な療養の場であり、中心静脈栄養や酸素療法、喀痰吸引など様々な医療処置が行われている。重度の褥瘡に対するケアもそうした処置の一つであるが、ADLや栄養状態の低下などの要因により、治療に難渋することもある。

このような状況の中、医療法人誠心会 東病院では、褥瘡の治癒促進に向けた栄養管理の一環として「**乳酸菌発酵成分配合ONS***」を試用したところ、良好な結果を得ることができたという。今回、その概要について矢立 緑 管理栄養士にお話を伺った。

※種類別 乳製品乳酸菌飲料（殺菌）



医療法人誠心会 東病院

所在地：熊本県球磨郡あさぎり町岡原北946
病床数：54（医療療養病棟）
診療科目：内科、小児科、呼吸器科、リウマチ科、胃腸科、理学診療科（リハビリテーション）

INTERVIEW 矢立 緑先生

医療法人誠心会 東病院 管理栄養士

新規 ONS の試用に至った背景

当院では、褥瘡の患者様に対する栄養管理の一環として、従来より褥瘡に配慮したONS（以下、他社ONS）を使用しています。同製品の栄養成分は創傷治癒の促進を考慮した組成となっており、難治の患者様に対しては提供量を増やすなどの対応を行ってきました。しかし、それでもなお再発を繰り返す患者様が一定数存在することから、他のONSの選択肢を模索する過程で、乳酸菌発酵成分配合ONSの試用に至りました。

乳酸菌発酵成分配合ONSの栄養成分は標準的な組成ですが、**発酵乳**を配合している点が大きな特徴となっています（表1）。本品を用いた褥瘡管理が奏功した事例（2例）を以下に提示します。

↓表1 創傷治癒と関わり深い栄養成分 1パック 125ml 当たり

	乳酸菌発酵成分配合 ONS
エネルギー (kcal)	200
たんぱく質 (g)	7.5
鉄 (mg)	1.5
亜鉛 (mg)	2.0
銅 (mg)	0.11
ビタミン A (μgRAE)	120
ビタミン C (mg)	100
その他	発酵乳配合

* レチノール活性当量

患者様①（80 歳代・女性）

褥瘡の著明な改善によって自宅退院が可能に

《試用開始前の状況》

身体計測値：身長136.5cm、体重45.8kg、BMI:24.6
現症：褥瘡（右腸骨部）
食事：一般食1600kcal（他社ONS 400kcal含む）
摂取率80～100%（他社ONSは100%）
ADL：ほぼ自立
排便状況：排便回数 1回/日（制酸・緩下剤を服用）
 Bristol スケール 4

この患者様は褥瘡治療を目的に当院へ入院された方で、入院当初から他社ONSを用いた栄養管理を行っていたものの、10ヵ月経過時点でも改善が見られず、対応に苦慮していました。

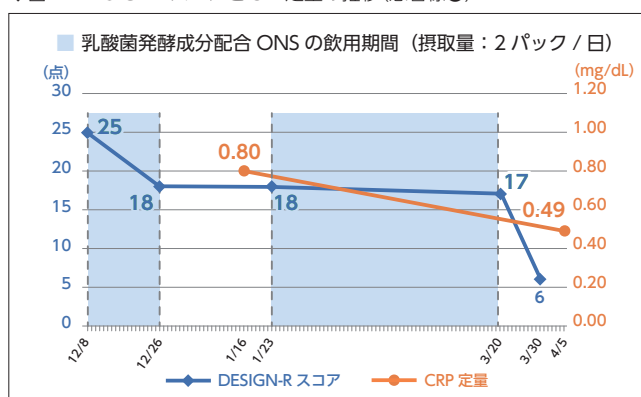
そうしたタイミングで乳酸菌発酵成分配合ONSを試用したところ、最初の20日間弱でDESIGN-Rスコアが改善し、続く約2ヵ月間の継続飲用後には炎症反応の軽減、褥瘡の著明な改善を認め、自宅退院に繋げることができました（図1）。

なお、この患者様はもともと栄養状態が良好であったことから、乳酸菌発酵成分配合ONSの飲用開始前後でエネルギーやたんぱく質の提供量は大きく変えておらず、体重、血清Albにも大きな変動は見られませんでした（図2）。

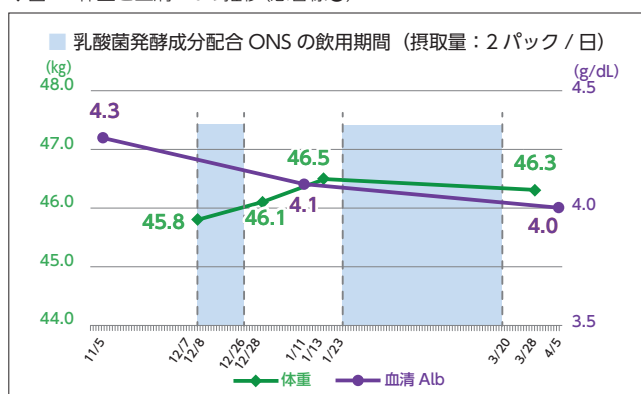
コメント

飲用期間中、栄養提供量のほか局所治療などのケア内容も変更していない点を踏まえると、褥瘡改善の背景として、乳酸菌発酵成分配合ONSの独自の成分である「**発酵乳**」が何らかの形で関与している可能性があると考えます。

↓図1 DESIGN-RスコアとCRP定量の推移（患者様①）



↓図2 体重と血清Albの推移（患者様①）



患者様② (40 歳代・男性)

約3週間で褥瘡が治癒し、体重も増加

《試用開始前の状況》

身体計測値 : 身長175cm、体重51.6kg、BMI:16.8
現症 : 脊髄小脳変性症、褥瘡(仙骨部)
食事 : 一般食2400kcal(他社ONS400kcal含む)
嚥食率100%
ADL : 一部介助(車椅子自走可能)
排便状況 : 排便回数 3回/週
ブリストルスケール 4.4(平均値)

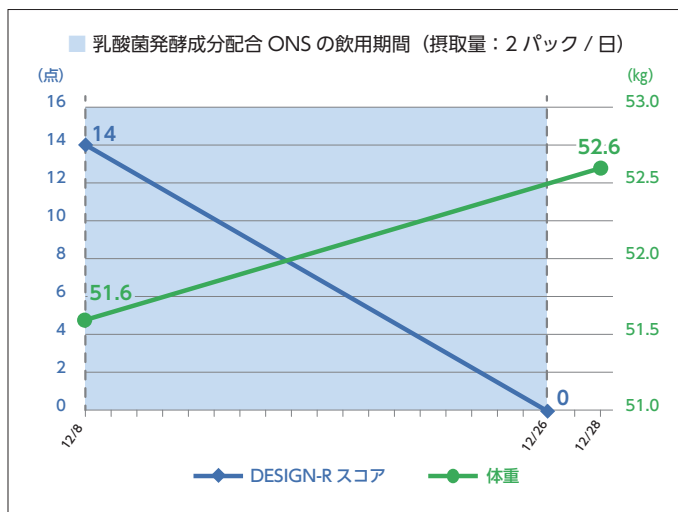
この方は、運動失調を主要症候とする指定難病「脊髄小脳変性症」の患者様で、症状の進行に伴って車椅子での入院生活を余儀なくされる中、褥瘡が発生しました。

摂食機能の低下により栄養状態も悪化しやすく、褥瘡の難治化・再発のリスクが高いことから対策に苦慮していたのですが、乳酸菌発酵成分配合ONSを試用してみたところ、約3週間で褥瘡は治癒し、体重も1kg増加しました(図3)。

その後、一時的に自宅退院されていた間に褥瘡が再発し、他社ONSにて栄養管理を行ったものの状態は安定せず、乳酸菌発酵成分配合ONSの飲用を再開すると、再び改善傾向に向かいました。

以後は、予防的な観点からも乳酸菌発酵成分配合ONSの飲用を継続しています。

↓図3 DESIGN-Rスコアと体重の推移(患者様②)



コメント

この患者様の場合、原疾患の進行抑制を目的としたリハビリテーションを積極的に行っており、活動量に応じた栄養補充は欠かせません。少量高エネルギーの乳酸菌発酵成分配合ONSは、効率的な栄養摂取にも役立っています。

乳酸菌発酵成分配合ONSの評価

褥瘡管理

今回、乳酸菌発酵成分配合ONSを用いた栄養管理により、2名の患者様において褥瘡の著明な改善を認めました。その要因については精査していませんが、一部低分子化された発酵乳中たんぱく質は消化管で消化・吸収されやすいこと、発酵乳摂取によってカルシウムなどの創傷治癒に必要なミネラルの吸収率向上が期待されることなどが関与している可能性があります。

排便管理

発酵乳が配合されていることから、腸管蠕動運動の促進が期待できるのではないかと考えています。今回の2名の患者様は、どちらも排便状況に大きな問題がなかったため、目立った変化は認めませんでした。飲用期間中に下痢や便秘などの症状は見られず、患者様からは「以前よりも自然に排便できるようになった」との声も聞かれました。

栄養管理

本品は、栄養成分が標準的な組成となっているため汎用性が高く、様々な基礎疾患のある患者様に対して幅広く提供できると考えます。とくに当院のような医療療養病棟では、リハビリテーション栄養の観点からも使用対象となる患者様は多いのではないかと考えられます。

その他

今回は試験的な導入ということもあり、比較的短い飲用期間で観察を行いました。褥瘡や栄養関連の指標の推移などを踏まえると、より長期に渡って飲用を継続することで、乳酸菌発酵成分配合ONSの有用性をさらに実感できる可能性もあると思われます。

【まとめ】

今回、褥瘡対策に難渋している患者様2名を対象に、乳酸菌発酵成分配合ONSを用いた栄養管理を行った結果、本品の継続的な飲用は、褥瘡の治癒促進に寄与する可能性が示されました。